

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
子ども音楽療育実習	演習・実習	1	朝野 典子
<p>【授業のテーマ及び到達目標】</p> <p>この科目は子ども音楽療育士資格取得のための必修科目であり、個人およびグループで行う学外実習、および事前・事後指導からなる。</p> <p>事前指導では実習に関わる基礎知識や実態等を学習し、実習がスムーズに展でけるようにする。</p> <p>実習は施設、保育所、通園事業、児童デイサービス等で行い、音楽療育の実践方法を身につける。障害のある子どもたちとのグループ体験や、ボランティア活動、音楽療育に関するワークショップ参加等の観察実習、参加実習、体験学習を通して、音や音楽を使った音楽療育の具体的実践方法を学習する。事後指導では実習体験を共有し、実習の反省をもとに意識の向上をめざし、さらなる技能の修得意欲を醸成する。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>1. 1 回目は実習の事前指導、15 回目は事後指導を行う。</p> <p>2. 2 回目から 14 回目の授業は施設等で実習を行う時間に充てる。担当教員が訪問指導を行う。</p>			
<p>【全体の授業計画・内容】</p> <p>1. 事前指導（実習の意義と目的、実習の内容、実習の心得等）</p> <p>2～14. 実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児との交流を通して障害についての理解を深める。 ・音楽(歌あそび、楽器あそび、身体運動等)を用いて保育所、幼稚園、小学校、知的障害児施設、知的障害児通園施設、児童デイサービス等での観察・参加実習、体験学習等を通して音楽療育の具体的な実践方法を学ぶ。 ・ボランティア活動、音楽療育に関するワークショップ等での参加実習を行う。 ・担当教員による訪問指導を受ける。 <p>15. 実習体験をもとにしたレポートの提出やディスカッションを行う。</p>			
<p>【準備学習の内容】</p> <p>予習のあり方： 実習施設の概要等について事前に調べておく。</p> <p>学習のあり方： 実習においては責任感を持ち、真摯な態度で取り組む。</p> <p>復習のあり方： 実習において体験した様々な事項を振り返り、次回の実習へとつなげる。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>提出物(実習レポート等) (50%)、実習態度(実習への意欲・関心等) (50%)</p>			
<p>【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】</p> <p>レポートにコメントを記入し返却する。</p>			
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に適時配布する。</p>			
<p>【参考文献】</p> <p>適宜照会する。</p>			